

反核医師の会

第52号 発行:核戦争に反対する医師の会・愛知

2005年9月26日

vol.23 No.2

(名古屋市昭和区妙見町19-2)
愛知県保険医会館気付
TEL052-832-1345

被爆60年を節目に、新たな決意で前進を

なくせ核兵器 なくすな9条

第16回核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 愛知

日時 2005年 10月22日(土) 14時~
23日(日) 15時

会場 中京大学・名古屋キャンパス
「ヤマテホール」ほか
名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL 052-835-7111

参加費 医師・歯科医師 5,000円
医療関係者 2,000円
医学生・一般 1,000円

10月22日(土) シンポジウム

「戦争・核の恐怖から抜け出す平和への道-日本の果たすべき役割は?」

10月23日(日)

講演「医師としての被爆体験を語る」

肥田舜太郎氏 (日本被団協被爆者中央相談所理事長)

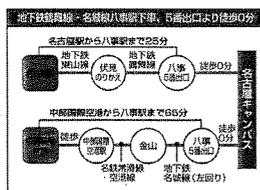
- 第1分科会 核兵器廃絶をめざして~世代を超えて医師の役割を考える~
- 第2分科会 原爆症とは何か-集団訴訟勝利、被爆者の救済のために
- 第3分科会 憲法と日本の戦争責任
- 第4分科会 劣化ウランの被害と劣化ウラン弾禁止運動

NAGASAKI-1945
~アンゼラスの鐘~



10月22日(土)
アニメ映画
「アンゼラスの鐘」上映会
14:00~15:20
※協力券1,000円
「つどい」参加者は無料

広島で、長崎で私たちの先輩医師たちは原爆で
備ついた人を助けようと懸命の努力をしました。
しかし、放射線障害の前に医学は全く無力でした。
そのことは、今も変わりません、そして今後も...
治すことができないのなら、私たち医師のつとめ
は予防すること。住民の生命を守るため、医師と
して「核兵器を廃絶させなければ」と、全国各地
に「反核医師の会」ができました。私たち「反核
医師のつどい」はその集まりです。



第16回「反核医師・医学者のつどい」
核兵器なくして平和の道の実現へ
医師・歯科医師も力を尽くそう
ぜひ多くの先生方にご参加を

全国の反核医師の会と、当愛知の医師の会、保険医協会、愛知民医連、医学生が中心でつくる『核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい』実行委員会は、核兵器なくして憲法九条を守り真の平和実現の道を探ろうと、全国と愛知の医師・歯科医師に参加を呼びかけて第十六回の「つどい」を名古屋で開催します（開催要綱・申込用紙は同封案内チラシ参照）。ぜひ多くの先生方が十月二十二日―二十三日の映画・シンポジウム・分科会に参加くださるようご案内します。

多彩な内容が関心呼び

今年の反核医師・医学者のつ

どいは、愛知初の上映となるアニメ映画『アンゼラスの鐘』、三人のシンポジストを迎えたシン

参加申込みは下記の方法で

同封チラシ裏面申込書をFax、又は振込用紙の通信欄にご記入のうえ、お申し込みください。

◇Fax052-834-3584/TEL052-832-1345
E-mail(aichi-undo@doc-net.or.jp)
◇参加費 5,000円
*同封の振込用紙をご利用ください。

※なお、22日のレセプションと23日の弁当をご希望の方は、参加費と合わせて振り込みください。

ポジウム、四つの分科会など内容が多彩で豊富なことから、チラシを見た県内の一般市民の方々からも注目を集め、全国の医師の関心も高まっている。

平和への道考える

シンポジウム

各地に紛争・戦闘地域がある一方、平和と核兵器廃絶を求める世論と運動もかつてなく大きくなっている。国際政治・憲法・反核平和運動、それぞれ三人のシンポジストの発言で平和への道を考え合う。

インターナショナルな分科会
韓国・イラクの医師も
報告者として参加

「原爆症とは何か」の第二分科会には、韓国人被爆者について、検診や実態調査を行った韓国・翰林大学漢江聖心病院のチョン・ヒョンチュン医師と、大邱赤十字病院神経内科のキム・チンク医師が来日し調査結果の報告を行う。

また、劣化ウラン問題の第四分科会では、「セイブ・イラクチルドレン名古屋」が昨年に続いてイラクのバスラ教育病院から招き、現在愛知医大附属病院整形外科で研修中のカリド医師と、十月二日に来名して同病院で研修する放射線科のアッバース医師が、イラクの現状を報告する。

アニメ映画『NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘』

愛知県内では初めての上映！

先生のご参加とあわせ、チケット普及にご協力を！

□入場券 1,000円

◆アニメーション制作/虫プロダクション(株)

◆上映時間/約80分



反核医師・医学者の「つどい」の幕開けの企画として、今から60年前1945年8月9日、長崎に原爆が投下されたとき、自ら被爆しながらも、傷ついた被爆者たちに医療活動を続けた秋月辰一郎医師を主人公とした長編アニメ映画「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」を上映します。

命をあずかる医師の先生方にぜひご覧いただきたい作品です。ご家族・従業員の皆様とご一緒に参加ください。

チケットのご注文は、同封のチラシ（ウラの申込書）Faxか、電話で申込みください。

☆参加申込み・お問合せ：担当事務局（田中・福島）まで

中日新聞社と朝日新聞社
も後援

今回のつどい開催にあたっては、日頃、反核医師の会が交流のある被爆者団体の愛友会、被爆者支援ネット、反核日本の音楽家たち、反核舞台人の集いな

ど四つの団体以外に、中日新聞社と朝日新聞社にも後援を得ることができた。このように、今までにない広がりを持った取り組みとなっている。

また、秋葉忠則広島市長にもスピーチを要請中で現在回答を待っているところである。

10月22日(土)

- ◆アニメ映画『アンゼラスの鐘』上映会/14:00
※入場券1,000円(「つどい」参加者無料)
- ◆シンポジウム/15:30
「戦争・核の恐怖から抜け出す平和への道
-日本の果たすべき役割は?」
浅井基文氏(広島市立大学広島平和研究所長)
本 秀紀氏(名古屋大学法学部教授・愛知憲法
会議事務局長代理)
高草木博氏(原水爆禁止日本協議会事務局長)
- ◆全体会/18:00 ◆レセプション/19:00
- ◆医学生・若手医師の交流会/20:30

10月23日(日)

- ◆講演/9:00 「医師としての被爆体験を語る」
講師:肥田舜太郎氏(日本被団協被爆者中
央相談所理事長)
- ◆分科会(第1・第2分科会/10:00 第3・第4
分科会/9:00)
- (第1分科会)「核兵器廃絶をめざして~世代を超
えて医師の役割を考える~」
報告者:新原昭治氏(非核の政府を求める会
核問題調査専門委員)
助言者:高草木博氏(原水爆禁止日本協議会
事務局長)
パネルディスカッション
- (第2分科会)「原爆症とは何か-集団訴訟勝利、
被爆者の救済のために」
報告者:間間 元氏(全日本民医連被ばく問
題委員会委員長)

沢田昭二氏(物理学者・名古屋大学
名誉教授)
樽井直樹氏(原爆症認定訴訟名古屋
弁護士事務所局長)
チョン・ヒョンチュン氏(韓国・翰
林大学漢江聖心病院、環境医学医師)
キム・チンクク氏(韓国・大邱赤十字
病院、神経内科医師)

(第3分科会)「憲法と日本の戦争責任」
報告者:高橋 信氏(名古屋三菱・朝鮮女子
勤労挺身隊訴訟を支援する会代表)
池住義憲氏(自衛隊イラク派兵差し
止め訴訟の会代表)
飯室勝彦氏(中京大学教授・中日新
聞論説委員)

(第4分科会)「劣化ウランの被害と劣化ウラン弾
禁止運動」
報告者:嘉指信雄氏(神戸大学教授・NO D
Uヒロシマプロジェクト代表)
小野万里子氏(弁護士、セイブ・イ
ラクチルドレン・名古屋代表)
カリド・イドリッシ氏(イラク・バ
スラ教育病院整形外科医師)
アッバース・アル・カナン氏(イラ
ク・バスラ教育病院放射線科医師)
斉藤みち子氏(愛知県保険医協会副
理事長)

◆全体会/14:00 ◆閉会/15:00

10月22日(土)

| | |
|-------|--|
| 14:00 | アニメ映画「アンゼラスの鐘」上映会 中京大学センタービル |
| 15:30 | シンポジウム/ヤマテホール 「戦争・核の恐怖から抜け出す平和への 道-日本の果たすべき役割は?」 |
| 18:00 | 全体会/ヤマテホール |
| 18:30 | |
| 19:00 | レセプション 中京大学センタービル・ガレリア |
| 20:30 | 医学生・若手医師の交流会 |

10月23日(日)

| | | | |
|-------|--|---|--|
| 9:00 | 肥田舜太郎氏講演 ヤマテホール 「医師としての被爆体験を語る」 ※第1・第2分科会の共通講演 | 第3分科会 「憲法と日 本の戦争 責任」 | 第4分科会 「劣化ウラ ンの被害 と劣化ウ ラン弾禁 止運動」 |
| 10:00 | 第1分科会 「核兵器廃絶 をめざして ~世代を超 えて医師の 役割を考え る~」 | 第2分科会 「原爆症とは何 か-集団訴 訟勝利、被爆 者救済のため に」 | |
| 12:00 | 昼食 ※各分科会場にて | | |
| 12:45 | 分科会再開 | 分科会再開 | 分科会再開 |
| 14:00 | 全体会/ヤマテホール 各分科会・交流会報告、次回開催地代表挨拶、 アピール・特別決議提案、 全体のまとめと閉会挨拶 | | |
| 15:00 | | | |

核戦争に反対する医師の会・愛知 三十三周年記念講演会

核時代を生きる

『劣化ウラン弾被害が問いかけるもの』

中国新聞特別編集委員 田城 明氏



核戦争に反対する医師の会・愛知」は五月十四日(土)、二十三周年記念講演会を開催した。田城氏は、自らの足で各国を取材し、劣化ウラン弾の被害が、使用されたイラクやコソボの住民だけでなく、使用した側であるアメリカ・イギリスの兵士や、劣化ウラン弾製造の過程でも周辺地域に広く現れていることを明らかにした。

市民を含め約七十人が参加し、劣化ウラン弾の製造・使用禁止に向け、思いを新たにしたい。以下、講演要旨を掲載する。

「核時代を生きる」 「」の意味

今日のテーマは「核時代を生きる」劣化ウラン弾被害が問いかけるもの」という形で、あえて「核時代を生きる」としました。

私は一九九九年から二〇〇〇年にかけてアメリカ

カ、イギリス、イラク、コソボなど旧ユーゴスラビア、沖縄を訪ね取材しました。それを二〇〇〇年三月から「知られざるヒバクシャ」劣化ウラン弾の実態」というタイトルで中国新聞に連載したのですが、そのころは読者にも「劣化ウラン」という言葉は知られていませんでした。

その後イラク戦争などで注目されるようになり、愛知では「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」の活動もあり、すでに具体的な行動をおこなわれています。

劣化ウラン弾については二〇〇三年にEU(欧州)議会在が製造・使用禁止を決議するなど、国際的にも関心は高まっています。

ただ、私が一つ伝えたいのは、決して劣化ウラン弾だけが核時代の大きな問題ではなく、核兵器そのものが一番大きな問題であるということです。核兵器がなかなか減らない、そしてミサイルに搭載されたまま今すぐにも発射される状態にあるというのが大きな問題なのです。今日は特に核超大国であるアメリカなどどのような影響があらわれているかをお話しします。

劣化ウランは核兵器・核燃料製造過程の廃棄物

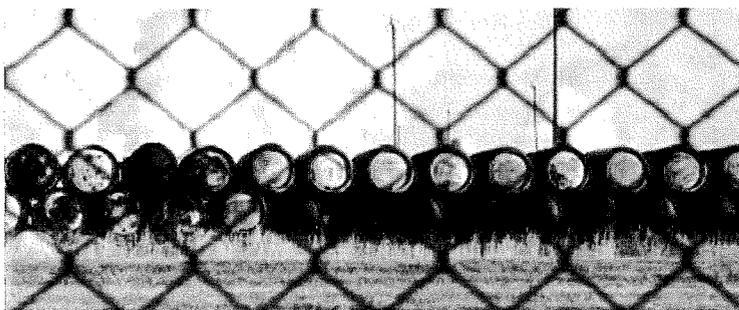
核兵器の製造過程では多数のヒバクシャが生まれています。核物質を扱う核物理学者は白血病やその他のガンに罹患することもあります。またウラン鉱山で働く労働者も被害にあっています。

アメリカや旧ソ連など核超大国と呼ばれる国ほど、安全保障の名において多くのヒバクシャをつくってきたのです。核時代においては、単に核戦争がなければ被害がないということではなく、核兵器をつくることによつて、あらゆる過程で様々な負の遺産を生みだしているのです。

劣化ウラン(ウラン二三八)というのは、天然ウランから核兵器や原子力発電所用の核燃料棒をつくりだすウラン濃縮過程で生まれてくる、低レベルの放射性廃棄物です。重金属物質であり、兵器として使用されれば大変な被害をもたらします。でも、兵器として使用される以前から、「核時代」の被害者がうまれているのです。

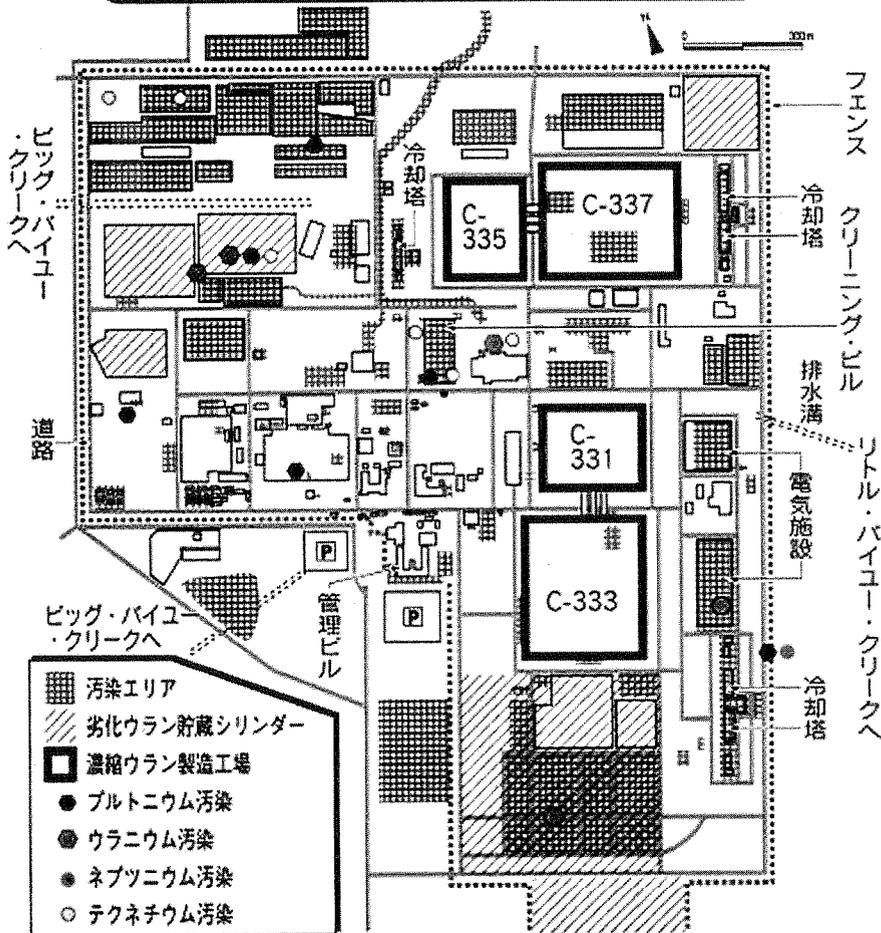
劣化ウラン弾は放射性廃棄物の再利用

最初に、アメリカの劣化ウランがどのように保管されているかについてお話しします。一九五一年につくられたケンタッキー州のパデューカ核施設では、操業過程での放射能汚染がひどく、周辺の環境汚染や労働者への影響も甚大です。放射生物質や化学物質の影響によって百五十人



野ざらしにされた劣化ウラン入りシリンダー

パデューカ核施設と主な汚染エリア



参考資料=クーリエ・ジャーナル紙、「パデューカ・ガス分離工場の環境・安全・健康問題」に関するエネルギー省独自調査レポート(2000年)など

パデューカ核施設と主な汚染エリア

二百人くらいが亡くなっているといわれています。核施設の内でも、プルトニウムやウラニウムによる汚染エリアがかなり広がっています。当然労働者も放射線物質や重金属物質を体内に取り込み、様々な病気を発症する原因になります。

ランが入ったシリンドラーは野ざらしのまま錆び付いた状態で保管されています。低レベルの放射性廃棄物ということでのこの核施設だけで四万個のシリンドラーがあります。

劣化ウラン弾を使用すれば、アメリカ国内に保管されている不要な劣化ウランを減らすことができるし、戦場でも効果を上げることができるというところで利用されてきました。劣化ウラン弾は本当に深刻な被害を引き起こしています。イラクでは小児白血病や先天性障害を増加させています。

劣化ウラン弾と湾岸戦争

しかし、核時代全体の中で考えれば、核時代がもたらす「負の遺産」の一つなのです。ところが、その負の遺産の一つであってもいかに深刻かということを考えていただきたいと思えます。

いながら、よその国へ行けば、環境汚染や人体への影響は全く考慮に入れていないのです。さらに今回のイラク戦争で使用された劣化ウラン弾は、千トンとも千五百トンとも言われています。しかも、バグダッドやバスラなど人口密度の高い都市部に使用しているのです。

アメリカのニューヨーク州北部にコロニーという町があります。ここには劣化ウラン弾の貫通体を製造する工場がありました。この工場は一九八〇年二月に州政府から操業停止命令を受けました。一月に百五十マイクロキュリー以上の放射性物質が敷地外に出たというのが理由です。百五十マイクロキュリーというのは劣化ウランの量にして三百八十七グラム、三十mmの劣化ウラン弾二個分に満たない量にあたります。それが敷地外に放出されたということで閉鎖されたのです。

九一年の湾岸戦争時には、約七十万人のアメリカ兵が参加し、うち四十三万人以上が被曝したといわれています。アメリカ軍の戦闘による犠牲者の数は、事故死も含めて百四十八人でしたが、戦争後、死者は増え続け今年一万一千人を超えたといわれています。原因について米政府は、劣化ウラン弾の影響、抗生物質薬、湾岸戦争症候群のいずれも認めていません。しかし、地上戦が始まってからの実質的な戦闘は数日で終わったのに、帰国後体調を崩すという状況が生まれているのです。

第一次湾岸戦争では米国防総省が認めているだけでも三百二十トンの劣化ウラン弾が使用されています。

アメリカは、市民を守るために非常に厳重な放射線管理を行

帰還米兵と家族に起きている健康被害

戦車部隊で百二十mm砲弾を装填する作業をしていたマイク・

ステーションさん(三十二歳)も湾岸戦争後に体調を崩しました。彼は、戦争後しばらくイラク南部にとどまり五月末にドイツの駐留先に戻りました。体調の異変は、帰国直後から始まりました。下痢、関節痛、全身の倦怠感などで郵便職員としての仕事を辞めざるを得なくなりました。が、退役軍人病院ではPTSDとしか診断されていません。彼はカナダの化学者に二回、尿検査をしてもらいましたが、いずれもウラン二三八が検出されています。血液検査では、重金属汚染も出ています。そして取材の中で非常にショックングだったことは、彼の奥さんが性交渉の際に「バーニングセンサーションを覚える」と言ったことです。それは下腹部の燃えるような痛みということなのです。

私は取材の中でアメリカでもイギリスでも「バーニングセンサーション」という言葉を聞いたのですが、イギリスのサンダーランド大学名誉教授のマルコム・フーパー博士はこのように説明しています。「劣化ウランの持つ化学的毒性や、兵士が摂取した他の化学物質による影響で、精子を作る代謝の際に影響が起き、非常に強いアミン物質、アンモニアのような物質が精子に多量に含まれる。塩基性のアンモニアは強い刺激性を持つているので、そのために女性たちは下腹部に燃えるような激しい痛みを感じるので」と。劣化ウランを取り込んだ奥さんの体も徐々にむしばまれ、腹痛、流産、光や香りなどに過敏反応を起こすようになります。

国防総省は湾岸戦争症候群の原因と治療法を見いだすために、これまでに四百七十七万ドル、二百四十七億円以上の予算をつけてきました。しかし、原因は劣化ウラン弾でも各種抗化学物質でもなく、唯一ストレスだと主張しています。それだけを使うために莫大なお金を使っているのです。しかし、劣化ウランの影響については、湾岸戦争開始前から国防総省のレポートで「腎臓に影響しガンを誘引する原因となる」と明らかにされているのです。劣化ウランの影響を認めると、自国の兵士への補償、イラク住民への補償、これまで使用した地域の汚染除去などに莫大なお金がかかるわけ

被爆国日本が果たす役割は

最近、日本では「核武装すべき」という声も上がるようになってきました。私たち自身の足元が問われています。被爆国である日本の私たちが世界に出かけて、平和主義・平和憲法の理念に基づきながら人類全体に対して、国際社会に貢献していくということをはっきりした形で示すことが必要です。そして同時に、日本の政治・外交のあり方を変えていく努力を一人一人がしていくことが重要なのです。最後に、アメリカの物理・化学者であるライナス・ポーリング博士の言葉を紹介します。彼は五十四年度にノーベル化学賞を受賞し、六二年度には核実験禁止を世界に訴えたという事でノーベル平和賞を受賞しています。九四年七月に博士を取材した時の言葉です。「第二次世界大戦中、私は地球上から戦争はなくならないと信じていた。だが、原爆投下のニュースはその考えを根底から変えてしまった。戦争はあつてはならないし、してはならない時代に人類は入ってしまったのだ。何よりも世界の人々に、核戦争が何をもたらすかを伝え、その体験から生まれた平和思想を世界に広げることだ。日本が豊かになり、戦争体験が風化しつつあると聞くと、それでは日本人の果たすべき人類への最も重要な役割を放棄するようになるのだ」。そのメッセージは私にとって非常に重いものがあり、私に、日本人や、世界の人人々に発せられた言葉だと思えます。今、体験の風化がいわれ、核兵器もなくならない中で、通常兵器として使われている兵器自体が小型核兵器と変わらないほどの破壊力を持つ

時代です。私たちはこのような厳しい、危険な状況下に生きていくことを自覚しながらも、だからといってあまり深刻になるのではなく、一人一人が様々な行動をおこすことで、より安全で平和な世界を築くための努力が、今、求められているのです。

参加者の感想から

■人権を重んじていたと思っていた米英が被爆者に対してかくも無責任な国であるのか改めて知ってショックでした。

■イラクの現実についてはそれなりに知っていたのですが、米英の兵士、核産業における実態は驚きました。「核大国は被爆大国」目からウロコです。

■劣化ウランが体内被曝の形で大きな問題を起こしていることが良く分かりました。やはりこうした会に出て、漠然としか分かっていなかったことがよくわかり、周囲に対して言葉伝えをしていく必要を強く感じました。知ることの大切さを改めて感じました。

NPT 会議、核廃絶の合意文書 採択できず アナン事務総長が呼びかけ 核のデッドロックを打破しよう

五月に
ニューヨークの国連本部で四週間
にわたって
開催された
NPT(核
不拡散条
約)再検討
会議は、前
回二〇〇〇
年の会議で
自国も賛成

して合意された『核廃絶の明確な約束』をも反故にするアメリカの強硬な妨害と抵抗によって、実質的討議を盛り込んだ何の合意文書も採択できず終了した。

核廃絶を拒否し合意文書 作成の妨害に終始した米國

再検討会議は、第一委員会(核軍縮・第二委員会「核不拡散」・第三委員会「原子力の平和利用」)の三分野に分かれて、報告書案をまとめるための検討の作業が行われた。

作業委員会では、前回NPT会議で合意した「核廃絶の明確な約束」実現のために、報告書に期限を切った核軍縮の明記を

求める非同盟諸国など非核兵器国に対し、核兵器廃絶を拒否するアメリカは作業文書に次々と「問題点」を指摘して修正を求める一方、自国の具体的な修正案は出さず報告書をまとめる妨害をした。

それでも、核兵器廃絶は 世界の大きな流れ

五月一日には世界中から、NPT再検討会議で核兵器廃絶の約束実現を求めて四万人の人々がニューヨークに集まり、大行動を繰り広げた。NPT会議の一般討論でも、非同盟諸国や新アジエンダ連合からだけでなく、アメリカの同盟国であるドイツやカナダ・トルコなどからも核廃絶を迫る声が出された。

アナン国連事務総長は米紙上で次のように述べた。NPT再検討会議は核不拡散、核軍縮、原子力の平和利用、三部門のどれをとっても実質的合意を得ることに失敗した。九月の各国首脳らが集まって開発・安全・人権などを話し合う国連創設六〇周年記念の首脳会議では、核兵器問題を議題に取り上げて核のデッドロックを打破しよう。



NPT会議要請団

ニューヨーク行動に参加して

徳田 秋

「二〇〇〇年の『核兵器廃絶の明確な約束』の時間を限った実行を迫ることこそ重要」と発言。「廃絶二〇〇〇」の創設者・ジャクリン・カバソ氏は「米政府が約束を反故にしようとしている今、核兵器は必ず廃絶できるという確信をもった市民の活動が重要」と述べました。

米フレンズ奉仕委員会のジョセフ・ガーンソン氏は「ブッシュ政権は全世界の中で孤立を深めている。核廃絶の熱い願いを政治の力に変えることが私たちの任務」と述べ、「被爆六十周年に日本被団協にノーベル平和賞を」と提唱しました。

五月一日は、一連の要請行動中最大のイベント、「アポリシオン・ナウ・ニューヨーク・マーチ&ラリー」の当日です。

日本からはるばるやってきた各県の代表団およそ千人が、思いの意匠をこらして集まっています。他の国々からもいろいろな人が一緒に歩いていきます。ちゃんとしたティンパニーに交じってバケツのような缶を肩から吊るし、即製の打楽器にしている人や、アクロバティックなダンスをしながら行く人など

と表現が私の目には奇抜で斬新に映ります。

彼らのつけているバッジにも目がとまります。最高傑作と思われたのは「The Red. They died. Mothers cried. 彼(ブッシュ)はうそを言った、かれら(アメリカ兵とイラク人たちは)は死んだ、母親たちは泣いた」と脚韻を踏んだものです。

マンハッタンを行進して道いっぱいに溢れた人の流れはそのままセントラルパークに入りました。奥の正面にステージが設けられ、四万人の大集会が始まりました(写真)。

先頭を歩いた秋葉広島・伊藤長崎両市長も演壇に立ち、翌日から始まるNPT再検討会議から「明確な約束」実行に向かう確かな一歩としてみんなの力で成功させよう、と力強く呼びかけました。

日本原水協の高草木事務局長は、渡米後の行動も含めて五百万を超える署名が集まったこと(私たちが持参した七百三十六筆の医師署名も含まれます)、その中には千名以上の首長や議長の名があることを報告して拍手と歓声に包まれました。

●会費納入のお願い●

二〇〇五年度の会費の納入をお願いいたします。納入に際しましては、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、左記の銀行口座あてにお振り込みくださるようお願いいたします。

■UFJ銀行・八事支店 普通預金108-297
「核戦争に反対する医師の会」

*二〇〇四年度の会費が未納の方には、併せて納入いただけますと幸いです。ご不明な点などございましたら、下記あてにお問い合わせください。

☎ 052-832-1345

原水爆禁止 2005 年世界大会 長崎からの報告

核兵器廃絶の流れを 世界中の草の根から起こそう!



原爆投下から六十年を迎えた今年、原水爆禁止二〇〇五世界大会が「核兵器廃絶・平和で公正な世界へ行動と共同を」をテーマに、広島での国際会議・広島大会に続き八月七日〜九日に長崎大会が開催された。堀場英也反核医師の会・愛知代表と中川武夫事務局長が参加した。

八月七日、開会総会にあたる「長崎のつどい」では、国際会議宣言起草委員長の安齋育郎氏が、「NPT(核不拡散条約)再検討会議はプッシュ政権の妨害で合意文書を採択できずに閉幕したが、核兵器廃絶こそ人類生存の不可欠条件であり、平和で公平な世界へ草の根の運動を飛躍的に発展させよう」と国際会議宣言を基に主催者報告を行った。

大会には、海外から八カ国の政府代表を含め二十九カ国二百六十四名が参加、一九五五年の第一回世界大会以来、最高の参加者となった。全国の代表も長崎では五千人、広島九千人、国際会議三百人と昨年より四〇％増。また多数の青年の参加が特徴として挙げられ、二十代は三〇％近く、青年が全参加者の約

半分を占める大会となった。

被爆者との交流など

多彩な行事に参加

八日はテーマ毎の会場に分かれ「集団訴訟支援交流」などの分科会や、被爆者の体験を聞きながら市内の遺構を訪ね被爆の実相に触れる「被爆・遺構めぐり」の動く分科会など多彩な企画が開催された。

その中の一つ、「佐世保基地調査行動」には約五百人がバス九台で参加した。道中地元の方に説明を受けながら、米軍の補給・出撃基地となっている佐世保基地の実態に触れ、交流した。「思いやり予算」で建設された米軍住宅や、佐世保の街の真ん中に建設中で何かあれば米軍が直ちに移動できる高速道路を目の当たりにし、驚きや怒りの声があがっていた。

また船上から見た数多くの自衛艦や米軍基地施設に、参加者は「平和とはほど遠い現状を実際にこの眼で見て、憲法九条の重要性を改めて認識した。戦争反対・九条を守れの声を一人でも多くの方に訴えていきたい」と語っていた。(井上)

「第16回反核医師・医学者のつどい」へのご参加とカンパのお願い

同封のPRチラシの裏面が「FAX 参加申込み書」になっています。必要事項をご記入の上、「反核医師のつどい実行委員会」(FAX: 052-834-3584)まで送付してください。

参加費等は専用の振り込み用紙(手数料不要)をご利用ください。

また残念ながら当日ご参加できない方は、カンパにご協力いただけますと幸いです。